

岩手教区報

第342号
 立教184年6月1日
 天理教岩手教務支庁
 盛岡市馬場町3-40
 TEL 019-622-7962
 FAX 019-623-9597



「災救隊結成50周年を迎えて」 主事・災救隊隊長 佐藤 一三

今年、天理教災害救援ひのきしん隊が結成50周年を迎える。「結成50周年記念大会」を、6月27日おちばで開催する旨が一昨年発表になり、大会動員目標3千名と教区訓練の充実をお打ち出し頂いた。しかし、昨年初頭から発生した新型コロナウイルスにより、おちばでの行事も次々と中止となり、自ずとこの大会も当初予定の内容を変更させるを得なつた。各教区からの参加について二度の縮小の連絡が入り、現在、「大会は、教区長、教区隊長の参加のみ」となっている。

例えば10年前の結成40周年大会は、直前に発生した東日本大震災の影響で急遽中止となり、岩手の被災地にも全国から多くの教友が駆けつけて下さり、復旧、復興に汗を流して下さった。

災救隊の歴史は、昭和46年に教区隊の結成が本格化した折、全国的な組織づくりが決まり動き出している。しかし、本教の災害救援の歴史ははるかに古く、明治24年の濃尾地震にさかのぼる。そして、大正12年の関東大震災、更に昭和34年の伊勢湾台風などでも、本教の救援活動は、世間の耳目を集めている。

岩手教区隊は昭和52年10月の結成であるが、教区訓練の場を教外に求め、行政や、社会福祉協議会との折

衝を経て、毎年、支部を順次巡って実施してきた。平成30年には、教区隊結成40周年記念訓練を奥州市の胆沢ダム周辺で実施し、式典には災救隊本部長、県社協のご列席を得て、結構につとめさせて頂いた。

災救隊は、ひのきしん精神に基づき、何の見返りも求めず、被災地にひたすら誠実を尽くすことで、人々に明日への勇気と元気を取り戻してもらおうことが願いであり、被災地に負担をかけない自己完結型の態勢にあることがモットーである。

近年、至るところで自然災害が発生していて、その度に災救隊が出勤している。災救隊本部からは、隊の充実と共に行政との連携をもって取り組んでほしいと言われている。幸い、岩手教区隊は歴代の隊長、隊員の実績のお蔭で、行政との連携もとれているので、これからもしっかりと活かしていきたい。

三代真柱様は、「災害の起こらない御守護を頂けるよう、日々のひのきしんの心掛けが大切である」と、事あるごとにお示し下さっていた。今、コロナ禍にあつて、教区訓練や、様々な行事が思うように出来ない状況ではあるが、陽気づくめの心、人をたすける心をもつて進んでいきたい。



「『しあわせ』を招く拍手」

神前での神拝作法を拍手と称します。天理教では四回の拍手を打ち参拝を致しますが、その訳合いを、私見をもって申し述べさせて頂きます。

神道一般の拍手は二拍手ですが、中には四回、八回の拍手もあり、八回打つのは八平手と称したり、また短拍手という小さく、短く打つ拍手もあるようです。

私たち天理教では四回の拍手を打ち参拝をしますので、時折、教外者の方から「出雲大社でも、四回拍手を打って拝をしますが、天理教と何か関係があるのですか」などと尋ねられることがあります。が、何の関係もありません、とお答えしております。

ところで、お道では何故四回の拍手を打って参拝するのですかと問われる事があると思いますが、皆様はどうお答えに

なられるでしょうか。

私は、教えの祖である「おやさま」が四拍手を打って拝されたので、その通りにやっているものと思います、とお答えしています。

ある先人の悟りによれば「私たちは、神様の教えによつて幸せ(四合わせ)に生きる道を教えて頂き有難い限りです、という感謝の思いを、四つ拍手を合わす四拍手にこめていっているのや」と聞かせて頂いた事があります。

又、教祖は、「さあさあ月日がありてこの世界あり、世界ありてそれぞれ(万物)あり、それぞれありて身の内(人間)あり、身の内ありて律あり」と教えられ、この世、人間世界の成り立ちの四つの順序を拍手に明示されているのではないのでしょうか。

更には、東西南北を四方、春夏秋冬を四季、又、陽気遊山の場合は海川野山の四か所に満ち溢れ、加えて、身の内の感覚器官は、目鼻口耳の四つ、立ち働く道具としては、両手、両足の四肢があります。これら霊妙な存在の中に私達の生活があり、又、私達は限りない生命活動に包まれている有難さを拍手に託して、更なる祈りを深めたいものであります。

全教一斉ひのきしんデー報告		
九戸	大野小学校	15名
盛岡	エスト前潟	6名
	大通り	8名
	沼宮内分教会周辺	10名 / 7名
三陸	子ども病院	15名
	大通り周辺、肴町商店街	73名
	三陸復興国立公園浄土ヶ浜	32名
花巻	三陸鉄道吉里吉里駅前公園	10名
	城山公園	8名 / 13名
奥州	鍋山公園	20名
	金ヶ崎診療所	23名
県南	愛与布教所周辺	46名

行事予定

- 1日 少年会例会(12時)
- 2日 主事会(9時)
- 2日 役員会議(10時)
- 6日 決算地方委員会(役員会議後)
- 6日 青年会草刈りひのきしん (9時 於摺沢農村公園)
- 12日 青年会例会(18時)
- 13日 学生担当委員会例会(19時)
- 13日 青年会草刈りひのきしん (9時 於浄法寺)
- 19日 教区小史編集委員会(9時~20日)
- 20日 女子青年例会(10時)
- 27日 みおしえ学習会スタッフ研修会(10時~14時)

【6月分】



「祭儀式勉強会」実施報告



祭事部

教区祭事部(鈴木眞理部長)は、去る5月16日(日)教務支庁において、「第7回祭儀式勉強会」を実施し、17人が受講した。近年の立式で執り行われる祭儀増加に対応する上から、今回は「立式による祭儀作法と祭儀式」を取り上げた。開講式に続き、講師の鈴木部長が基本作法、笏の扱いの違い、歩法、椅子への座り方の説明と実技を行い、祭事部員による

7人制の葬後霊祭が実演された。その後、7人制の祭儀式と3人制の祭儀式の演習も行われた。初めて聞く立式の正しい作法に、驚きや戸惑いも見られたが、参加者は終始真剣に受講し、有意義な勉強会となった。



婦人会

「支部婦人会総会」をつとめて

二戸支部主任 藤田美奈子

2年ぶりとなる総会は、5月29日(土)金田一分教会を会場に、堀口教之支部長先生をはじめ、委員長と総会を心待ちにして下さる婦人会員の総勢12人で行われました。神殿を広く使い、みかぐらうたはCDを音源にして心の中で唱え、総立ちで十二下りのおつとめをつとめました。式典では、教区主任先生から二戸支部婦人会に対するおほめの言葉と、これから勇んで進んでいく力をご祝辞で

読ませて頂きました。支部長先生のお話では、神様に祈る時にはお願いより先に御礼の言葉を申し上げることを教えて頂きました。今回の総会では、コロナ禍収束の祈りをこめておつとめをつとめましょう、と申し合わせたので、体調の悪い方、集まることに不安な方は、総会の日に自宅で共にお願いして下さい。三分の一くらいでしたが、皆さんとても勇んでつとめて下さいました。来年こそは、心晴れやかに陽気に勇んで総会をつとめさせて頂くことができそうですように、と祈りながら散会いたしました。



行事延期のお知らせ

6月に予定されていた婦人会「後継者勉強会」は、来年に延期となりました。



布教部

「みおしえ学習会」について

岩手教区では、昨年度まで、ようぼくが教えを学ぶ地域活動として、「ようぼく成人講座」を開催してきましたが、今年度より「ようぼく成人講座」の名称がなくなりしました。

本部布教部は、今まで実施していた「かがやきプログラム」「にをいがけドリル」は継続し、今年度から「みおしえ学習会」を新たに追加して、この中からいずれかを選択してつとめるようにとされています。岩手教区では、今年度「みおしえ学習会」を各支部で開催させて頂く事になりました。

「みおしえ学習会」とは、地域におけるようぼくを対象とした活動の一つで、ワークシートとDVD(ビデオ)を用いた、ファシリテーター(進行役)による演習形式のプログラムです。ワークシートに答えていくことで、教えを身近に感じやすくなります。また、他の参加者の考えを聞くことで新たな気づきが得られます。「ようぼく成人講座」はようぼくを対象とした研修会でしたが、「みお

しえ学習会」は、入信したての信者さんにも受講して頂ける研修会となっております。どうぞ、ご活用下さい。



向正訓 講師
え学習会スタッフ研修会」が実施され、22人が参加した。本部講師向正訓先生(宇奈道分教会長)が、「みおしえ学習会」の目指すものを示した上で、実際のプログラムをユーモアを交えて模擬実演した。スタッフは、はじめて取り組む本学習会に向けて、研鑽を積んでいくことになる。



教務支庁ひのきしん

本年度、支部毎に月一回教務支庁の清掃ひのきしんをお願いしている。5月は、15日に九戸・二戸支部にひのきしんを勤めて頂いた。



九戸	7月11日(日)	13時	陸中戸田分教会
二戸	10月31日(日)	13時	浄法寺分教会
盛岡	9月5日(月)	10時	教務支庁
三陸	11月14日(日)	13時	花宮古分教会
花巻	8月22日(日)	13時半	花巻分教会
奥州	11月28日(日)	10時	岩手沢分教会
一関	11月4日(木)	13時	磐井分教会
県南	3月21日(月)	13時	千厩分教会
〃	3月31日(木)	13時	盛分教会

立教184年度の開催会場は左記の通りです。